

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	17 - 文学 - 1
-----------------	-------------

平成 17 年度配分 研究成果の概要

研究名	大学生における環境移行後の心理的適応と成長感に及ぼす対人関係の影響				
配分を受けた特別研究費	文化政策学部長 特別研究費 460 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	文化政策	文化政策	助教授	福岡欣治	
共同研究者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 7 号 (2007年3月発行) ※執筆予定	
	2 学会等での発表 学会等名: 日本教育心理学会 または関連他学会(日本発達心理学会等)		発表日 (発表 予定日)	平成19年9月頃 (※見込み)	
	3 その他 発表の方法:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

ストレス対処や心理的適応に及ぼす支持的な対人関係の役割は、社会心理学において広く認識されている。他方、大学生にとって、親からの心理的離乳、自我同一性の確立という発達課題に取り組みつつ、大学という新たな環境に適応し学業生活に積極的に関与していくことは、決して容易なことではない。

本研究では、平成14年度に文化政策学部長特別研究の助成を受けて実施した大学新生を対象とした縦断調査をふまえ、その発展的追試をおこない、環境移行後のストレス対処と心理的適応における対人関係の影響を分析することを目的とした。

具体的には、対人関係(ソーシャル・サポート)に関する指標をより洗練させ、また進路意識ならびに成長感(自己概念の肯定的変化)について新たな指標を取り入れ、調査の規模も拡大することとした。なお、平成14年度の研究では、主として友人のサポートが自己充實的な達成動機を高めることで大学新生の学業および大学生活全般についての意欲低下を防ぐ効果をもつこと、また家族および友人のサポートが精神的健康を支える効果をもつこと等が明らかにされている。

(研究の実施方法等)

本学を含む複数の大学における新生を対象として、入学後1年間に約6ヶ月間隔で二度の質問紙調査を実施し縦断的な分析をおこなうことにより、大学入学後のストレス対処と心理的適応およびストレス対処に伴う成長感の実態、さらにはそれらに及ぼす対人関係の影響を検討した。

主なスケジュールと調査内容は以下のとおり。

平成17年5～6月

先行研究および平成14年度調査データの再確認および調査票の検討。

平成17年6月末～7月

本学を含む3つの大学において質問紙調査(第1回調査)を実施。調査内容は、精神的健康、大学入学前および調査時点での人間関係(父親・母親・同性の友人・異性の友人についてのソーシャル・サポート、大学内外での友人・知人および教員との関係)、自己充實的および競争的達成動機、大学生活への意欲、現在の大学への志望理由と入学の経緯、気分状態、進路意識。回答者は約450名。

平成17年10～11月

ストレス体験をふまえた自己概念の肯定的変化(成長感)に関する予備調査を実施。

平成18年1月末～2月

前回に続き、2つの大学において質問紙調査(第2回調査)を実施。調査内容は、調査時点での父親・母親・同性の友人・異性の友人についてのソーシャル・サポート、進路意識、過去半年間でのストレス体験、自己成長感、進路意識、大学生活への意欲、精神的健康。回答者は約350名。

(得られた成果等)

大学生活への適応は、環境移行の心理的問題としても、また教育実践上の問題としても重要である。軽度の抑うつ症状を伴う意欲低下の問題は、指導上も看過し得ない。同時に、大学生は試験や進路選択等、時期的・内容的に共通のストレスに直面することから、ストレス対処における対人関係の役割を検討するのに適している。

現時点ではまだデータ分析を継続している状態であり、詳細は本年度の本学紀要等にて報告する予定である。なお、分析の観点、入学前後の人間関係が入学後最初の学期における心理的適応をどのように規定するか、およびその後の大学生活における経験およびソーシャル・サポートが進路意識や成長感をも含む大学生活への適応とどのように関連するかであり、これらについて実証的な知見の提供を目指している。